

# 東日本大震災後、女性では男性より1.6倍 心的外傷後ストレス症状(PTSS)が多い

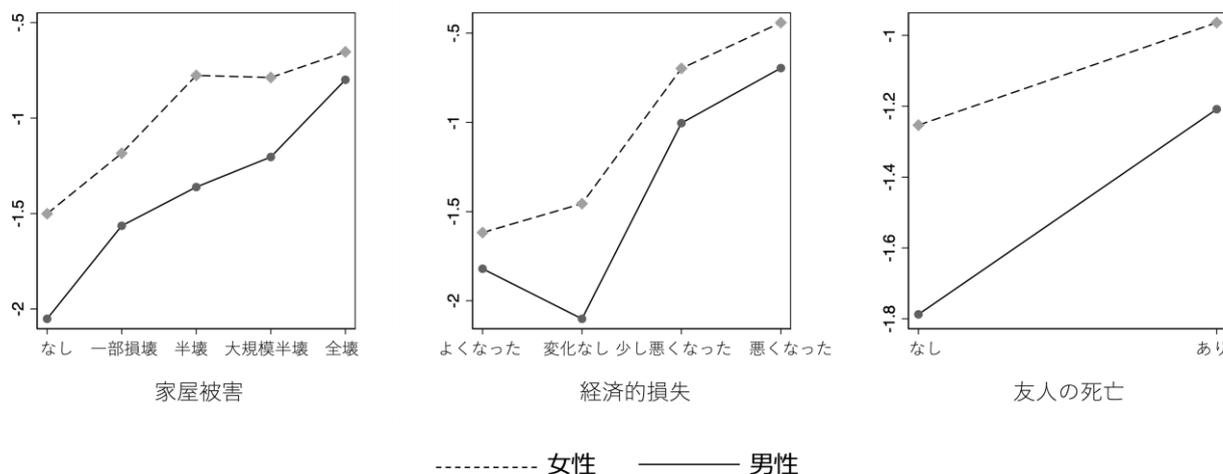
～親族の喪失、家屋被害、近隣の人との助け合いの喪失が一因か～

災害があった際、女性の方が男性より心的外傷後ストレス障害(PTSD)を発症しやすいことが知られています。可能性として、1)女性の方が災害時に被害に遭いやすいか、2)女性の方が同じ被害に対して脆弱であることが挙げられます。本研究では、東日本大震災前後に取得された3,334名の追跡データを利用し、上記二つの仮説を検証した上で、どのような要因が心的外傷後ストレス症状の男女差を説明するのか検討しました。

震災から2.5年後、女性の方が1.6倍多く心的外傷後ストレス症状を抱えていました。仮説1の検証の結果、女性の方が家屋被害や家族との死別を経験しやすく、それらによって21%程度男女差が説明できることがわかりました。しかし仮説2の検証の結果、被害がなかった人と比較し、被害があった場合に症状を持つ人の増加幅が大きいのはむしろ男性でした(図参照)。男性の方が被害に対して脆弱であると捉えることもできますが、女性では自分自身に被害がなかった場合にも症状を発症した人が多かったとも捉えられます。特に女性では近隣住民との助け合いが減少し、それによって21%程度男女差が説明できることもわかりました。女性の方が地域コミュニティの中で人付き合いの役割を担うことが多く、それが失われたことで心的外傷後ストレス症状に繋がったのかもしれませんが。

お問合せ先: ハーバード公衆衛生大学院 社会行動科学学部  
リサーチフェロー 矢澤 亜季 [aki.yazawa@gmail.com](mailto:aki.yazawa@gmail.com)

心的外傷後ストレス症状 (PTSS) に対する被災経験と性別の交互作用



## ■背景

災害に関する研究では、女性は男性に比べて心的外傷後ストレス障害(PTSD)を発症するリスクが高いことが示されています。理論的には、女性の方が被害に遭いやすいか、女性の方が同じ被害に対して脆弱である可能性が考えられます。また、社会的役割の違いにより災害の影響が男女で異なる可能性もあります。例えば、男性の方が仕事の喪失による影響を受けやすく、女性の方が地域コミュニティでの役割を失うなどの影響を受けやすい可能性があります。本研究では、東日本大震災の被災者を対象とし、1)被災体験への曝露に男女差があるか、2)被災体験に対する脆弱性に男女差があるか、3)心的外傷後ストレス症状(PTSS)の男女差を説明する要因は何か明らかにすることを目的としました。

## ■対象と方法

日本老年学的評価研究プロジェクト(JAGES)の中で、2011年に発生した東日本大震災の前後(2010年、2013年)に取得された宮城県岩沼市に居住する65歳以上の方3,334名の追跡データを利用しました。被災体験として、家屋被害、失職、経済的損失、家族・友人との死別の5つを評価しました。また、周囲の人との助け合いが震災前後で減少したかどうかについて、家族に貰う・与えるサポート、近隣住民に貰う・与えるサポートに対し、心理的(愚痴を言い合えるなど)・物質的(困ったときに看病し合えるなど)側面についてそれぞれ評価しました。以上のような被災体験に男女差があるのか調べ、PTSSに対する脆弱性に男女差があるのかポアソン回帰分析を用いて性別と被災体験との交互作用を検討し、PTSS発症の男女差が各要因によってどの程度説明されるのか媒介分析を用いて検討しました。年齢、教育歴、婚姻状況、世帯収入、抑うつ症状の影響を解析で除外しました。

## ■結果

震災後PTSSは女性の31.0%、男性の19.4%に見られ、1.6倍の男女差が確認されました。被災体験に関しては、女性では家族との死別を報告した人が多かったのに対し、男性では失職や友人との死別が多く報告されました。また女性では特に近隣の人とのサポートのやりとりの低下が見られました。脆弱性の違いに着目したポアソン回帰分析の結果、性別といくつかの被災体験との間には交互作用がありましたが、想定されている方向ではありませんでした(図参照)。すなわち、被災の程度が大きくなるほどPTSSに対する脆弱性の男女差は小さくなりました。媒介分析の結果、家族との死別、家屋被害、近隣住民との助け合いの低下が女性でより多く報告され、それらによってPTSSの男女差の約21%が説明できることがわかりました。

## ■結論

東日本大震災後女性の方が男性に比べてPTSSを発症しやすく、その差の21%程度が家族との死別、家屋被害、近隣住民との助け合いの低下を女性の方が経験しやすいことで説明できるとわかりました。しかし、女性が全ての被災体験を受けやすいというわけではなく(例外:失職や友人との死別)、被災に対して脆弱性が高いというわけでもありませんでした。男性の方が脆弱であると解釈することもできますが、女性では自分自身に被害がなかった場合にもPTSSを発症した人が多かったとも考えられます。

## ■本研究の意義

自然災害の研究では珍しい震災前のデータが豊富にある利点を生かし、これまでも報告のあったPTSSの男女差について様々な要因で説明を試みました。

## ■発表論文

Yazawa, A., Aida, J., Kondo, K., & Kawachi, I. (2022) Gender differences in risk of posttraumatic stress symptoms after disaster among older people: Differential exposure or differential vulnerability? *Journal of Affective Disorders*, 297, 447–454.

■謝辞 本研究は、アメリカ国立衛生研究所(R01 AG042463)、文部科学省・日本学術振興会科学研究費(15H01972)、厚生労働科学研究費補助金(H28-Chouju-Ippan-002)などの助成を受けて実施しました。記して深謝します。